

「太田ポンカン」のクラッキング・水腐れ症軽減

農業研究部・果樹グループ

1. 研究の背景

県南地域ではポンカンが広く栽培されているが、収穫前に発生する果皮障害の一種であるクラッキングと水腐れ症が問題となっている。ビニールなどで樹全体を被覆し雨水を遮れば、これらの果皮障害は発生しないが設置に掛かるコストや労力が大きい。そこで、パラフィン系被膜資材および植物成長調整剤の散布によるクラッキングと水腐れ症の軽減を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・パラフィン系被膜資材としてプロテックα 500倍を3回、植物成長調整剤としてジベレリン液剤 0.5ppmを1回、果実表面が十分濡れるまで散布した(表1)。
- ・クラッキングはジベレリン液剤の散布により、発生が低くなる傾向が見られた(表2)。
- ・水腐れ症はプロテックα およびジベレリン液剤の散布で、発生が抑えられた(表3)。なお、水腐れ症の発生が少ない気象条件下であった。

表1 薬剤散布時期

| 試験区 | 薬剤散布時期 | | |
|-------------------------|--------|-------|------|
| | 11/10 | 11/24 | 12/2 |
| ①プロテックα散布区 | ○ | ○ | ○ |
| ②ジベレリン散布 | △ | | |
| ③慣行 | | | |
| ○…プロテックα △…ジベレリン (4分着色) | | | |



表2 クラッキング発生率

写真 左：クラッキング(大分果研4)

| 試験区 | クラッキング発生率 (%) | | | | | |
|-------------|---------------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | 11月24日 | 12月2日 | 12月8日 | 12月16日 | 12月23日 | 12月30日 |
| プロテックα3回散布区 | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 11.7 | 16.9 | 20.3 |
| ジベレリン散布区 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 10.0 | 12.5 | 14.3 |
| 無処理区 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 13.3 | 18.3 | 25.0 |

※Tukeyの多重検定により5%水準で有意差なし

表3 水腐れ発生率

| 試験区 | 水腐れ発生率 (%) | | | | | |
|-------------|------------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | 11月24日 | 12月2日 | 12月8日 | 12月16日 | 12月23日 | 12月30日 |
| プロテックα3回散布区 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ジベレリン散布区 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 無処理区 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 1.7 |

※Tukeyの多重検定により5%水準で有意差なし

3. 期待される効果

プロテックα 3回散布およびジベレリン液剤1回散布により、クラッキングや水腐れ症の軽減が見込まれる。ジベレリン液剤は1回散布で、クラッキングの抑制効果が高いことから、簡易対策として有用である。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 果樹グループ カボス・中晩柑チーム
 TEL:0972-82-2837
 住所:津久見市津久見浦福3456